

出来秋を迎え、県とJAグループ山形は、9月1日から10月末まで秋の農作業事故防止啓発運動を展開している。JA共済連山形が提供する山形放送の朝のラジオ番組「おはよう！セーフレイドライブ」でも、職員や関係者が交代で事故への警戒を呼び掛ける。

県地域営農法人協議会会員で、真室川町の農事組合法人「ひまわり農場」理事の佐藤孝和さんは11日放送の番組に出演する予定だ。「農地は山あい」に点在。大型機械を積んで車で移動するだけでも片道30分以上かかる所もある。傾斜地が多く、農作業は常に事故の

秋の農作業事故防止運動

危険と隣り合わせ」と佐藤さんは話す。

農場では、高橋清一組合長ら4人と臨時、パート従業員20人で水稲20畝、飼料用米と牧草45畝、大豆90畝の他、ミニトマトやブロッコリー、冬の促成野菜、根ミツパを栽培している。高齢化が進み、条件不利な山間農地を受託。農業と地域を守っているという自負がある。それだけに安全には人一倍気を使う。

毎朝、作業前にはミーティングを欠かさない。圃場（ほじょう）に危険箇所がないか、農業機械に不備や故障はないか、従業員同士が声を出し、点検し合う。

収穫期に懸念されるのがコンバインやバインダーの事故。水田への進入時や後退時の転落・転倒、詰まり除去時のフィードチェーンやカッターへの巻き込み、公道での事故も要注意だ。

佐藤さん自身、斜面を乗り越えようとして横転しそうになり、刈り払い機で急斜面を草刈り中に足を滑らせて転倒するなど、ヒヤッとした経験を持つ。

「事故を防ぐためには、声を掛け合い、適度に休息を取り、計画的に心にゆとりを持って無理のない作業を心掛けることが一番」と佐藤さんは言う。地域・担い手サポートセ

声掛け合い、無理せず



朝のラジオ番組収録で農作業事故防止を呼び掛ける佐藤さん

ンターは万一の農作業事故に備えて、農業者向け労災保険への加入環境を整え、さらにJA共済への加入で万全な保障を、と呼び掛けている。